

『丁寧な大局観』 ～ 『昔も今も変わってはいない』 ～

2024年8月20日『令和6年度第10回臨床腫瘍セミナー』を福島県立医科大学事務局 教育研修支援課 医学部教務係 がんプロ担当主事 安藤忠好氏から依頼された(画像)。

演題：丁寧な大局観 ～ 風貌を見て、心まで診る ～

講演趣旨：【電子計算機時代だ、宇宙時代だといってみても、人間の身体のできと、その心情の動きとは、『昔も今も変わってはいない』のである。超近代的で合理的といわれる人でも、病気になって自分の死を考えさせられる時になると、太古の人間にかえる。その医師に訴え、医師を見つめる目つきは、超近代的でも合理的でもなくなる。静かで、淋しく、哀れな、昔ながらの一個の人間にかえるのである。その時の救いは、頼りになる良医が側にいてくれることである】(吉田富三：1903 -1973)の言葉

『吉田富三記念 がん哲学外来』は、福島県出身で『吉田肉腫』&『腹水肝癌』の発見などで世界的に知られ、文化勲章を受けた福島県出身の病理学者：吉田富三を記念して、2009年に福島県立医科大学で開設された。筆者は、医師になり、癌研究会癌研究所の病理部に入った。病理学者であり当時の癌研究所所長であった菅野晴夫先生（1925-2016）の恩師である日本国の誇る病理学者：吉田富三との『邂逅』に繋がった。菅野晴夫先生とは、2003年『日本病理学会』と『日本癌学会』で『吉田富三生誕100周年記念事業』を行う機会が与えられた。必然的に『がん哲学＝生物学＋人間学』の提唱へと導かれた。【福島県出身の世界的病理学者 吉田富三博士を記念して、博士の孫弟子である樋野興夫先生が『福島がん哲学外来』を開設しました。がんと共に生きる患者/ご家族の思いや悩みをともに考える“心の診察室”です。】と心温まる紹介がなされている。

吉田富三は、『医学者としてのみならず、癌という病気を通じて社会の原理まで言及す言葉』を多数残している。『癌細胞で起こることは、人間社会でも起こる』を学び、2004年『がん哲学～がん細胞から人間社会の病理を見る～』(to be出版)(画像)を出版するという時を与えられた。【『人生の邂逅』は人知・思いを超えて進展する】ことを痛感する日々である。

令和6年度 第10回臨床腫瘍セミナー

丁寧な大局観 ～ 風貌を見て、心まで診る ～

【電子計算機時代だ、宇宙時代だといってみても、人間の身体のできと、その心情の動きとは、『昔も今も変わってはいない』のである。超近代的で合理的といわれる人でも、病気になって自分の死を考えさせられる時になると、太古の人間にかえる。その医師に訴え、医師を見つめる目つきは、超近代的でも合理的でもなくなる。静かで、淋しく、哀れな、昔ながらの一個の人間にかえるのである。その時の救いは、頼りになる良医が側にいてくれることである】(吉田富三:1903－1973)の言葉

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長

講師 **樋野 興夫 先生**
(ひの おきお)

1984年～1991年 (財) 癌研究会癌研究所病理部研究員
1984年～1985年 米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター
1989年～1991年 米国フォクスチェース癌センター
1991年～2004年 (財) 癌研究会癌研究所実験病理部部長
2003年～2019年 順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授
2019年～ 新渡戸稲造記念センター長
2021年～ 恵泉女学園理事長



2002年日本病理学賞/2003年高松宮妃癌研究基金学術賞/2016年保健文化賞/
2018年日本対がん協会「朝日がん大賞」/2018年 日本癌学会「長興又郎賞」/
日本癌学会(理事歴任)・日本病理学会(理事歴任)・第99回日本病理学会総会会長、等

日時：令和7年2月5日(水)18時～19時

場所：福島県立医科大学11号館 第1臨床講義室

参加無料／事前登録不要

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ、患者様及び一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆ 本セミナーは、『東北次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
- ◆ 本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。



樋野興夫

順天堂大学医学部病理学教授
癌研究会癌研究所実験病理部部長

がん病理学者・樋野興夫教授の
提唱する話題の「がん哲学」を
平易な語り口で紹介。
がん細胞に学ぶ現代教養書。

to be 出版 定価(本体762円+税)